

介護職員初任者研修カリキュラム及び日程表

研修期間 平成29年3月1日～平成29年10月31日

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
1. 職務の理解【基準時間 6 時間（うち通信上限 0 時間）】						
多様なサービスの理解	第 1 回目 3 月 1 日 16 : 00～ 18 : 00	0 時間	2 階 会議室 20 名	[4] 楠田幸司	ア	・「介護」とは何か、国の福祉理念に基づく役割を、社会福祉士及び介護福祉士法、介護保険制度と絡めながらの説明 ・介護保険サービス（利用者が利用できるサービスの種類、役割、特色について） ・介護保険外サービスの種類や具体例
	第 2 回目 3 月 3 日 16 : 00～ 17 : 00 (計 3 時間)					
介護職の仕事内容 や働く現場の理解	第 3 回目 3 月 6 日 16 : 00～ 18 : 00	0 時間	2 階 会議室 20 名	[7] 吉住慶太	アカ	・居宅、施設の多様な働く現場の仕事内容。 ・実際のサービス現場の具体的なイメージ（体験談をおりまぜて説明） ・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 ※「職務の理解」DVD視聴。
	第 4 回目 3 月 8 日 16 : 00～ 17 : 00 (計 3 時間)					
小 計	6 時間	6 時間				
2. 介護における尊厳の保持・自立支援【基準時間 9 時間（うち通信上限 7. 5 時間）】						
人権と尊厳を支える介護	第 5 回目 3 月 14 日 16 : 00～ 18 : 00	0 時間	2 階 会議室 20 名	[2] 津川繁 [8] 嘉悦千春	ア ア	(1) 人権と尊厳の保持 ・個人としての尊重 ・アドボカシー ・エンパワメントの視点 ・「役割」の実感 ・尊厳のある暮らし ・利用者のプライバシーの保護 (2) ICF ・ 介護分野における ICF
	第 6 回目 3 月 16 日 16 : 00～ 18 : 00 (計 4 時間)					

(別紙様式4)

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						(3) QOL ・QOLの考え方 ・生活の質 (4) ノーマライゼーション ・ノーマライゼーションの 考え 【実施方法】 「介護分野におけるICF の視点の活用とQOLの 向上」について小グルー プに分かれてグループデ イスカッション (5) 虐待防止・身体拘束禁 止 ・身体拘束禁止 ・高齢者虐待防止法 ・高齢者の養護者支援 ※具体例をあげながら (6) 個人の権利を守る制度 の概要 ○個人情報保護法 ○成 年後見制度 ○日常生活自立支援事業
自立に向けた支援	第7回目 3月21日 16:00～ 18:00 第8回目 3月23日 16:00～ 18:00 第9回目 3月27日 16:00～ 17:00 (計5時間)	0時間	2階 会議室 20名	[7] 吉住慶太	アカ	(1) 自立支援 ・自立・自律支援 ・残存能力の活用 ・動機の欲求 ・意欲を高める支援 ・個別性/個別ケア ・重度化防止 (2) 介護予防 ・介護予防の考え方 【実施方法】 利用者の事例について具体 的な自立支援を小グループ に分かれてグループディス カッション
小 計	9時間	0時間				
3. 介護の基本 【基準時間6時間（うち通信上限3時間）】						
						(1) 介護環境の特徴の理解 ・訪問介護と施設介護サー

(別紙様式 4)

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
介護職の役割、専門 性と多様職との連 携	第 10 回目 3 月 29 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 2 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[7] 吉住慶太	ア カ	ビスの違い ・地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ・重度化防止・遅延化視点 ・利用者主体の支援姿勢 ・自立した生活を支えるた めの援助 ・根拠のある介護 ・チームケアの重要性 ・事業所内のチーム ・多職種から成るチーム (3) 介護に関する職種 ・異なる専門性を持つ多職 種の理解 ・介護支援専門員 ・サービス提供責任者 ・看護師等とチームとなり 利用者を支える意味 ・互いの専門職能力を活用 した効果的なサービスの提 供 ・チームケアにおける役割 分担
介護職の職業倫理	第 11 回目 4 月 4 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 2 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[2] 津川繁 [8] 嘉悦千春	ア ア	職業倫理 ・専門職の倫理の意義 ・介護の倫理 (介護福祉士 の倫理と介護福祉制度等) ・介護職として社会的責任 ・プライバシー保護・尊重 【実施方法】 「倫理」とは何か、なぜ「倫 理」が必要とされるの かを、利用者目線で考える ために、具体的な事例を用 いたグループディスカッ ションを行う
						1) 介護における安全の確保 ・事故に結びつく要因を探 り対応していく技術 ・リスクとハザード (2) 事故予防、安全対策 ・リスクマネジメント

(別紙様式 4)

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
介護における安全 の確保とリスクマ ネジメント	第 12 回目 4 月 6 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 1 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[2] 津川繁 [8] 嘉悦千春	ア ア	<ul style="list-style-type: none"> ・分析の手法と視点 ・事故に至った経緯の報告 (家族への報告、市町への報告等) ・情報の共有 (3) 感染対策 ・感染の原因と経路 (感染源の排除、感染経路の遮断) ・「感染」に対する正しい知識 ※「高齢者に多い疾患・緊急時の対応法と感染予防」DVD視聴と解説 (看護出版発行)
介護職の安全	第 13 回目 4 月 11 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 1 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[2] 津川繁 [8] 嘉悦千春	ア ア	介護職の心身の健康管理 <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康管理が介護の質に影響 ・ストレスマネジメント ・腰痛の予防に関する知識 ・手洗い・うがいの励行 ・手洗いの基本 ・感染症対策
小 計	6 時間	0 時間				
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 【基準時間 9 時間 (うち通信上限 7.5 時間)】						
介護保険制度	第 14 回目 4 月 13 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 15 回目 4 月 17 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 3 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[4] 楠田幸司	ア	1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント ・予防重視型システムへの転換 ・地域包括支援センターの設置 ・地域包括ケアシステムの推進 (2) 仕組みの基礎的理解 <ul style="list-style-type: none"> ・保険制度としての基本的仕組み ・介護給付と種類 ・予防給付 ・要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						・財政負担 ・指定介護サービス事業者 の指定
医療との連携とリ ハビリテーション	第16回目 4月19日 16:00～ 18:00 (計2時間)	0時間	2階 会議室 20名	[1] 西健次郎	カ	・医行為と介護 ・訪問介護 ・施設における看護と介護 の役割・連携 ・リハビリテーション理念 ※介護職に必要な医学知識 とケアのポイント」 DVD視聴と解説 (看護出版発行)
障害者自立支援制 度およびその他制 度	第17回目 4月25日 16:00～ 18:00 第18回目 4月27日 16:00～ 18:00 (計4時間)	0時間	2階 会議室 20名	[4] 楠田幸司	ア	1) 障害者福祉制度の理念 ・障害の概念 ・ICF(国際生活機能分 類) (2) 障害者総合支援制度の 仕組みの基礎的理解 ・介護給付・訓練等給付の 申請から支給決定まで (3) 個人の権利を守る制度 の概要 ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業
小 計	9時間	0時間				
5. 介護におけるコミュニケーション技術 【基準時間6時間(うち通信上限3時間)】						
介護における コミュニケーション	第19回目 5月1日 16:00～ 18:00 (計2時間)	0時間	2階 会議室 20名	[5] 小野勝	ア	(1) 介護におけるコミュニ ケーションの意義、目的、 役割 ・相手のコミュニケーション 能力に対する理解や配慮 ・傾聴 ・共感の応答 (2) コミュニケーションの 技法、道具を用いた言語的 コミュニケーション ・言語的コミュニケーショ ンの特徴 ・非言語コミュニケーショ ンの特徴

(別紙様式 4)

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の思いを把握する ・意欲低下の要因を考える ・利用者の感情に共感する ・家族の心理的理解 ・家族へいたわりと励まし ・信頼関係の形成 ・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い (4) 利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 ・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ・失語症に応じたコミュニケーション技術 ・構音障害に応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術 ※体験談を含めた解説と実践方法
介護における チームのコミュニケーション	第 20 回目 5 月 2 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 21 回目 5 月 8 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 4 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[7] 吉住慶太	アカ	(1) 記録における情報の共有化 ・介護における記録の意義 ・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ・介護に関する記録の種類 ・個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等） ・ヒヤリハット報告書 ・5 W 1 H (2) 報告 ・報告の留意点 ・連絡の留意点 ・相談の留意点 (3) コミュニケーションを

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						促す環境 ・会議 ・情報共有の場 ・役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼） ・ケアカンファレンスの重要性 【演習実施方法】 事例を用いてクループワークにて個別援助計画を作成する
小 計	6 時間	0 時間				
6. 老化の理解 【基準時間 6 時間（うち通信上限 3 時間）】						
老化に伴うこと と体の変化と日常生活	第 22 回目 5 月 10 日 16 : 00～ 18 : 00 第 23 回目 5 月 16 日 16 : 00～ 17 : 00 (計 3 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[3] 松本和子	ア	(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・防衛反応（反射）の変化 ・喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・身体的機能の変化と日常生活への影響 ・咀嚼機能の低下 ・筋・骨・関節の変化 ・体温維持機能の変化 ・精神的機能の変化と日常生活への影響
高齢者と健康	第 24 回目 5 月 18 日 16 : 00～ 18 : 00 第 25 回目 5 月 22 日 16 : 00～ 17 : 00 (計 3 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[7] 吉住慶太	アカ	1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ・骨折 ・筋力の低下と動き・姿勢の変化 ・関節痛 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ・循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患） ・循環器障害の危険因子と対策 ・老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症) ・誤嚥性肺炎 ・病状の小さな変化に気付く視点 ・高齢者は感染症にかかりやすい ※実例をあげて解説
小 計	6 時間	0 時間				
7. 認知症の理解 【基準時間 6 時間（うち通信上限 3 時間）】						
認知症を取り巻く状況	第 26 回目 5 月 24 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 1 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[7] 吉住慶太	アカ	認知症ケアの理念 ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点（できることに着目する） 【認知症ケア】DVD視聴と解説 (看護出版発行)
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	第 27 回目 5 月 29 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 2 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[7] 吉住慶太	アカ	認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ・認知症の定義 ・もの忘れとの違い ・せん妄の症状 ・健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア） ・治療 ・薬物療法 ・認知症に使用される薬
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	第 28 回目 5 月 31 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 2 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[5] 小野勝	ア	(1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の中核症状 ・認知症の行動・心理症状 (BPSD) ・不適切なケア ・生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 ・本人の気持ちを推察する ・プライドを傷つけない

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						<ul style="list-style-type: none"> ・相手の世界に合わせる ・失敗しないような状況をつくる ・すべての援助行為がコミュニケーションであると考ええること ・身体を通したコミュニケーション ・相手の様子・表情・視線 ・姿勢などから気持ちを洞察する ・認知症の進行に合わせたケア
家族への支援	第 29 回目 6 月 6 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 1 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[7] 吉住慶太	ア カ	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の受容過程での援助 ・エンパワメントの重要性とレスパイトケアの実践
小 計	6 時間	0 時間				
8. 障害の理解 【基準時間 3 時間（うち通信上限 1.5 時間）】						
障害の基礎的理解	第 30 回目 6 月 8 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 1 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[3] 松本和子	ア	(1) 障害の概念と ICF <ul style="list-style-type: none"> ・ ICF 分類と医学的分類 ・ ICF の考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 <ul style="list-style-type: none"> ・ ノーマライゼーションの概念
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	第 31 回目 6 月 13 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 1 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[7] 吉住慶太	ア	(1) 身体障害 <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障害 ・ 聴覚、平衡障害 ・ 音声・言語・咀嚼障害 ・ 肢体不自由 ・ 内部障害 (2) 知的障害 <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的障害 (3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） <ul style="list-style-type: none"> ・ 統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患 ・ 高次脳機能障害 ・ 広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害な

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						どの発達障害 (4) その他の心理の機能障 害 ・療育の視点の重要性及び ライフサイクル理論を考 慮した援助 を講師の実践経験等も含 めて
家族の心理、かかわ り支援の理解	第 32 回目 6 月 15 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 1 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[3] 松本和子	ア	家族への支援 ・障害の理解・障害の受容 支援 ・介護負担の軽減 ※体験談と関わりについて 解説
小 計	3 時間	0 時間				
9. こころとからだのしくみと生活支援技術 【基準時間 7 5 時間 (うち通信上限 1 2 時間)】						
I 基本知識の学習 (10 ~ 13 時間)						
介護の基本的な 考え方	第 33 回目 6 月 19 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 34 回目 6 月 21 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 4 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[2] 津川繁 [8] 嘉悦千春	ア ア	・倫理に基づく介護 (ICF の視点に基づく生 活支援、我流介護の排除) ・法的根拠に基づく介護 ・利用者主体の介護とは ・生活障害の改善、QOL 向上の視点について
介護に関するこ ころのしくみの 基礎的理解	第 35 回目 6 月 23 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 36 回目 6 月 26 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 4 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[4] 楠田幸司	ア	・学習と記憶のメカニズム と基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 (マズローの欲求段階説) ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる 適応行動とその阻害要因 ・こころの持ち方が行動に 与える影響 ・からだの状態がこころに 与える影響
介護に関するか らだのしくみの 基礎的理解	第 37 回目 6 月 28 日 16 : 00 ~ 18 : 00	0 時間	2 階 会議室 20 名	[1] 西健次郎	カ	・人体の各部の名称と動き に関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基 礎知識、ボディメカニクス の活用

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
	第 38 回目 6 月 30 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 39 回目 7 月 3 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 5 時間)					・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部機関に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点 ・高齢者の健康と老化 (QOL・ADL・IADL) の評価と維持向上について
I 計	13 時間	0 時間				
II 生活支援技術の講義・演習 (50～55時間)						
生活と家事	第 40 回目 7 月 5 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 41 回目 7 月 7 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 42 回目 7 月 10 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 5 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[3] 松本和子	ア	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ・生活歴 ・自立支援 ・予防的な対応 ・主体性・能動性を引出す ・多様な生活習慣 ・価値観 【実施方法】 具体的な援助の失敗事例を用いて、小グループでディスカッションする
快適な居住環境整備と介護	第 43 回目 7 月 12 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 44 回目 7 月 14 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 4 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[1] 西健次郎	カ	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ・家庭内に多い事故 ・バリアフリー ・住宅改修 ・福祉用具貸与 【実施方法】 具体的な利用者の事例を用いて、行動特性や安全に配慮した快適な環境整備の工夫を小グループでディスカッションする

(別紙様式 4)

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
整容に関連した こころとからだ のしくみと自立 に向けた介護	第 45 回目 7 月 18 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 46 回目 7 月 20 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 3 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名 実習場所 地 域 交 流 ホ ー ル	[2] 津川繁 [8] 嘉悦千春	ア ア	整容に関する基礎知識、整 容の支援技術 ・身体状況に合わせた衣服 の選択、着脱 ・身じたく ・整容行動 ・洗面の意義・効果 【実施方法】 ・着脱の実技指導（ベッド 上での半介助・全介助のパ ジャマ・浴衣交換） ・モーニングケアの実技指 導
移動・移乗に関 連したこころと からだのしくみ と自立に向けた 介護	第 47 回目 7 月 24 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 48 回目 7 月 26 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 49 回目 7 月 28 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 50 回目 7 月 31 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 51 回目 8 月 2 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 9 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名 実習場所 地 域 交 流 ホ ー ル	[1] 西健次郎	カ	移動・移乗に関する基礎知 識、さまざまな移動・移乗 に関する用具とその活用方 法、利用者、介助者にとっ て負担の少ない移動・移乗 を阻害するこころとからだ の要因の理解と支援方法、 移動と社会参加の留意点と 支援 ・利用者と介護者の双方が 安全で安楽な方法 ・利用者の自然な動きの活 用 ・残存能力活用・自立支援 ・重心・重力の働きの理解 ・ボディメカニクスの基本 原理 ・移乗介助の具体的な方法 （車いすへの移乗の具体的 な方法、全面介助でのベッ ド・車いす間の移乗、全面 介助での車いす・洋式トイレ間の移乗） ・移動介助（車いす・歩行 器・つえ等） ・褥瘡予防 ※高齢者に関する内容に特 化せず、視覚障害者や肢体 不自由者等の障害特性を踏

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						<p>まえた内容も併せて教授する。</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクス（人間の自然な動作の活用）・良肢位・体位の実技指導 ・安楽な体位・褥瘡予防の実技指導 ・ベッド上の体位変換の実技指導 ・車椅子の基本構造・名称と点検の実技指導 ・車椅子の移乗（半介助・全介助のベッド・ポータブルトイレ⇄車椅子）の実技指導 ・車椅子の移動（乗車）の実技指導 ・視覚障がい者の歩行の介護の実技指導
食事に関連した ところとからだ のしくみと自立 に向けた介護	<p>第52回目 8月4日 16:00～ 18:00</p> <p>第53回目 8月7日 16:00～ 18:00</p> <p>(計4時間)</p>	0時間	<p>2階 会議室 20名</p> <p>実習場所 地域交流ホ ール</p>	[6] 藤芳芙美子	ク	<p>食事にに関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事をする意味 ・食事のケアに対する介護者の意識 ・低栄養の弊害 ・脱水の弊害 ・食事と姿勢 ・咀嚼・嚥下のメカニズム ・空腹感 ・満腹感 ・好み ・食事の環境整備（時間・場所等） ・食事に related 福祉用具の活用と介助方法 ・口腔ケアの定義

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						<ul style="list-style-type: none"> ・誤嚥性肺炎の予防 <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢の整え方及びベッド上での食事介助の実技指導（誤嚥性肺炎の予防） ・視覚障がい者の食事介助の実技指導
入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	第 54 回目 8 月 9 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 55 回目 8 月 17 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 56 回目 8 月 18 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 57 回目 8 月 21 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 58 回目 8 月 23 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 9 時間)	時間	2 階 会議室 20 名 実習場所 ユニット入 浴室 地 域 交 流 ホ ー ル	[5] 小野勝	ア	入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 <ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心や遠慮への配慮 ・体調の確認 ・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、体の支え方） ・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 ・陰部清浄（臥床状態での方法） ・足浴・手浴・洗髪 <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易浴槽での安全な入浴介助の実技指導 ・ベッド上での全身清拭の実技指導 ・ベッド上での洗髪の実技指導 ・ベッド上での部分浴（手浴・足浴）の実技指導 ・ベッド上での陰部洗浄の実技指導 ・目・鼻・耳・爪の清潔方法とスキンケア
	第 59 回目 8 月 25 日 16 : 00 ~ 18 : 00	0 時間	2 階 会議室 20 名	[3] 松本和子	ア	排泄に関する基礎知識、様々な排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄

(別紙様式 4)

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
排泄に関連した ところとからだ のしくみと自立 に向けた介護	第 60 回目 8 月 28 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 4 時間)		実習場所 地 域 交 流 ホ ール			<p>を阻害するところとからだ の要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄とは ・身体面（生 理面）での意味 ・心理面での意味 ・社会的な意味 ・プライド・羞恥心 ・プライバシーの確保 ・おむつは最後の手段／お むつ使用の弊害 ・排泄障害が日常生活上に 及ぼす影響 ・排泄ケアを受けることで 生じる心理的な負担・尊厳 や生きる意欲との関連 ・一部介助を要する利用者 のトイレ介助の具体的方法 ・便秘の予防（水分の摂取 量保持、食事内容の工夫／ 繊維質の食事を多く取り入 れる、腹部マッサージ） <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド上での挿入便器・ 尿器・おむつ交換実技指導 ・褥瘡予防のための配慮
睡眠に関連した ところとからだ のしくみと自立 に向けた介護	第 61 回目 8 月 30 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 62 回目 9 月 1 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 3 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名 実習場所 地 域 交 流 ホ ール	[3] 松本和子	ア	<p>睡眠に関する基礎知識、さ まざまな睡眠環境と用具の 活用方法、快い睡眠を阻害 するところとからだの要因 の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安眠のための介護の工夫 ・環境の整備（温度や湿度、 光、音、よく眠るための寝 室） ・安楽な姿勢・褥瘡予防 <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シーツ交換の実技指導
	第 63 回目 9 月 4 日 16 : 00 ~ 18 : 00					<p>終末期に関する基礎知識と ところとからだのしくみ、 生から死への過程、「死」 に向き合うところの理解、 苦痛の少ない死への支援</p>

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
死にゆく人に関 連したところと からだのしくみ と終末記介護	第 64 回目 9 月 6 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 65 回目 9 月 8 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 66 回目 9 月 11 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 67 回目 9 月 13 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 9 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[2] 津川繁 [8] 嘉悦千春	ア ア	・終末期ケアとは ・高齢者の死に至る過程(高 齢者の自然死(老衰)、癌 死) ・臨終が近づいたときの兆 候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必 要性 【実施方法】 「ターミナルステージに 沿った緩和ケア」DVD視 聴による理解 「共存へのターミナルケ ア」DVD視聴による解説 「高齢者施設での終末期 ケアの関わり方」 DVD視聴による解説
Ⅱ 計	50 時間	0 時間				
Ⅲ 生活支援技術演習 (10～12時間)						
介護過程の基礎 的理解	第 68 回目 9 月 15 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 69 回目 9 月 19 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 70 回目 9 月 21 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 5 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[3] 松本和子	ア	・介護過程の目的・意義・ 展開 ・介護過程とチームアプロ ーチ 【事例による展開】 ・具体的な利用者の事例 (生活場面・障がい状況の 異なる 4 事 例)を用いて、それぞれの 介護過程のアセスメント ・目的・ 意義・展開、留意点・チー ムアプローチの方法等を ロールプレイング・グルー プワークで学習
	第 71 回目 9 月 25 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 72 回目 9 月 27 日					(事例による展開) 生活の各場面での介護につ いては、ある状態像の利用 者を想定し、一連の生活支 援を提供する流れの理解と 技術の習得、利用者の心身 の状況にあわせた介護を提

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
総合生活支援技 術演習	16:00～ 18:00 第 73 回目 9 月 29 日 16:00～ 18:00 第 74 回目 10 月 2 日 16:00～ 17:00 (計 7 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[7] 吉住慶太	ア	供する視点の習得を目指す。 ・事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1 事例 1.5 時間程度で上のサイクルを実施する） ・事例は、「高齢分野」（要支援 2 程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から 2 事例を選択して実施。
Ⅲ計	12 時間	0 時間				
小 計	75 時間	0 時間				
10. 振り返り						
【基準時間 4 時間（うち通信上限 0 時間）】						
振り返り	第 75 回目 10 月 4 日 16:00～ 18:00 (計 2 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[7] 吉住慶太	アカ	・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） ・受講生本人に、研修を振り返って学んだこと（初めて知り理解した事、今まで気付かずにいて気付いた事、これから介護職員として働くにあたって大切だと思う事等）各自どれか一つを選択して記述・発表 ・講師は受講生の発表の中からポイントを拾い、これまでの研修の復習・確認となる部分の内容を講義、実技演習を行う。 ・受講生一人ひとりの今後の課題をシートにまとめ

(別紙様式 4)

項 目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						る
就業への備えと研修終了後における継続的な研修	第 76 回目 10 月 6 日 16 : 00～ 18 : 00 (計 2 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[7] 吉住慶太	アカ	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例 (Off-JT, OJT) を紹介 ・介護職としてのマナー・接遇について 「職務の理解」DVD の視聴で、介護職の働く現場や仕事内容をリアルにイメージしてもらい、学ぶ前と学んだ後の違いも実感させる ・また、質疑応答にて就業への備えとする
小 計	4 時間	0 時間				
合 計	130 時間	0 時間				

修了評価						【基準時間 1 時間以上】
項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				【講師番号】 氏名	要件	
修了評価	第 77 回目 10 月 10 日 16 : 00～ 17 : 00 (1 時間)		2 階 会議室 20 名	[7] 吉住慶太	ア カ	・研修を通しての総評 ・今後の介護に期待すること ・地域での活躍について ・筆記試験

- 注 1 「項目」欄には、各科目を細分化した項目名又はその読み替えにより事業者毎に定める項目名を記載する。項目数が多く、欄が足りないときは、適宜追加して記載する。
- 注 2 講義を通信の方法で行う場合、「通信相当分」欄に、通信で学習する内容に相当する講義時間数（科目毎に別紙 4 に定める時間数を上限とする）を記載する。
- 注 3 「担当講師」の「番号」及び「要件」欄には、講師一覧表（別紙様式 5）に記載した「番号」及び「講師要件」を転記する。
- 注 4 「実施内容及び実施方法」欄には、講義及び演習の具体的進め方や時間、実習を行う場合は実習の内容や時間、方法等を記載する。欄内に記載できない場合は、科目毎に別葉に記載する。
- 注 5 記入欄が不足する場合は、適宜欄を追加し、本様式に準じた様式で記入する。